



修学旅行を振り返る



6月12日(日)より3年生修学旅行を2泊3日で実施しました。今年の修学旅行は予定していた日程で、予定していた方面に行くことができました。しかし、昨年と同様にコロナ禍の緊張感をもってのスタートとなりました。

初日の最初の活動は、びわこスカイアドベンチャーでのハイエLEMENT、ローELEMENTの体験でした。高さ約8Mの空中に作られたアスレチックに挑戦するハイエLEMENT。高さの恐怖や足元の不安定さになかなか前に進むことができない人もたくさんいました。しかし、スタッフの方の「**一步を踏み出す勇氣**」を持ってほしいという言葉や周りの仲間からの「がんばれ」の言葉に勇氣づけられ、参加した全員が最後までやり切りました。ローELEMENTでは仲間と協力しながら答えを導き出すゲームや様々なレクリエーションを通じてさらに仲間との絆が深まったのではと思います。みんなとてもいい笑顔でした。その後は3日間お世話になるホテル「郡上八幡」に向かい、入館式を行いました。

2日目は、選択体験を行いました。①ジップライン、②マウンテンバイク、③モノ作り体験の3グループに分かれ、それぞれの活動場所に向かいました。ジップライン(ZIP LINE)とは、山や森など自然のなかに架けられたワイヤーロープにベルトとハーネスを装着してぶら下がり、プーリーと呼ばれる滑車を使って滑り降りるアウトドアアクティビティです。マウンテンバイク(MTB)はオフロードと呼ばれる凹凸の激しい悪路を走ったり、勾配のきつい山道を登り降りしたりすることが得意な自転車です。強い衝撃にも耐えられる頑丈さがありながら軽量という特徴があります。モノ作り体験はジェルキャンドルとオルゴール作りを楽しみました。校長先生はマウンテンバイクのところにいました。思ったより乗りこなすのが難しいようで、しばらく練習をしたあと、みんな颯爽とスタートしました。帰ってきたときには「今年来た修学旅行生の中で一番上手だった」と褒められている人もいました。それぞれの活動で普段経験できない雄大な自然を感じ、すばらしい景観に触れることができたことと思います。昼からはラフティングです。長良川を大きなゴムボートに乗って、皆で呼吸を合わせて進み、川を下ってきます。ほとんどの生徒が初めての経験ということもあり、最初は少し不安そうでしたが、スタートした時から歓声が上がり、存分に楽しんでいました。途中激流ポイントもあり、スリルを味わいました。流れが穏やかなところでは川に飛び込んだりしながら自然を満喫していました。少し水温が低かったようですが、みんな気持ちよさそうにラフティングを楽しんでいました。終わったときにはそれこそ、皆がいい笑顔でした。見ているだけでも気持ちよさが伝わり、終始楽しかったです。

夜にはお待ちかねの全体レクリエーションをレク係の人を中心に行いました。冒頭の各部活動のすご技動画を皮切りに有志によるダンス、クイズ。個人の才能を十二分に発揮したすばらしい歌やアクロバティックなパルクールも披露してくれました。みんなを楽しませるために渾身の一発芸をやってくれた人もいました。各クラスの出し物もそれぞれが創意工夫し、本当にクオリティーの高い出来上がりになっていました。何よりも**やっている人たちが楽しみ、見ている人も楽しんでいる**という最高の全体レクリエーションでした。

3日目はお楽しみの高松市内での班別行動でした。高松の古い街並みを散策しながら高山ラーメン、みたらし団子、飛騨牛握り、などの名物を堪能している様子は本当に楽しそうでした。集合場所の別院に誰一人遅れることなく集合し、班活動を完ぺきにやり切りました。修学旅行に出発するとき、校長先生は3年生に3つの話をしました。1つは無事に行って帰ってくる。2つ目は修学旅行の意味を考え、ルールや約束を守りながら思い切り楽しむ。そしてそうするために3つ目は、考えて行動する。ということをお話ししました。それらをしっかりと3年生はやり切ってくれました。さらには高山市内で一般の観光客の方や他校の修学旅行生がたくさんいる中で**公(おおやけ)の動き**、周りに迷惑をかけない**公動**(こうどう)もできていたことを校長先生は誇らしく思います。3年生の皆さん、お疲れさまでした。参加したくてもできなかった人のことを忘れずに大切な思い出にしてください。